

# 都市再生整備計画 事後評価シート

ド ウ ゴ ブ ン キョウ チ ク  
道後文京地区

平成31年3月

愛媛県 松山市

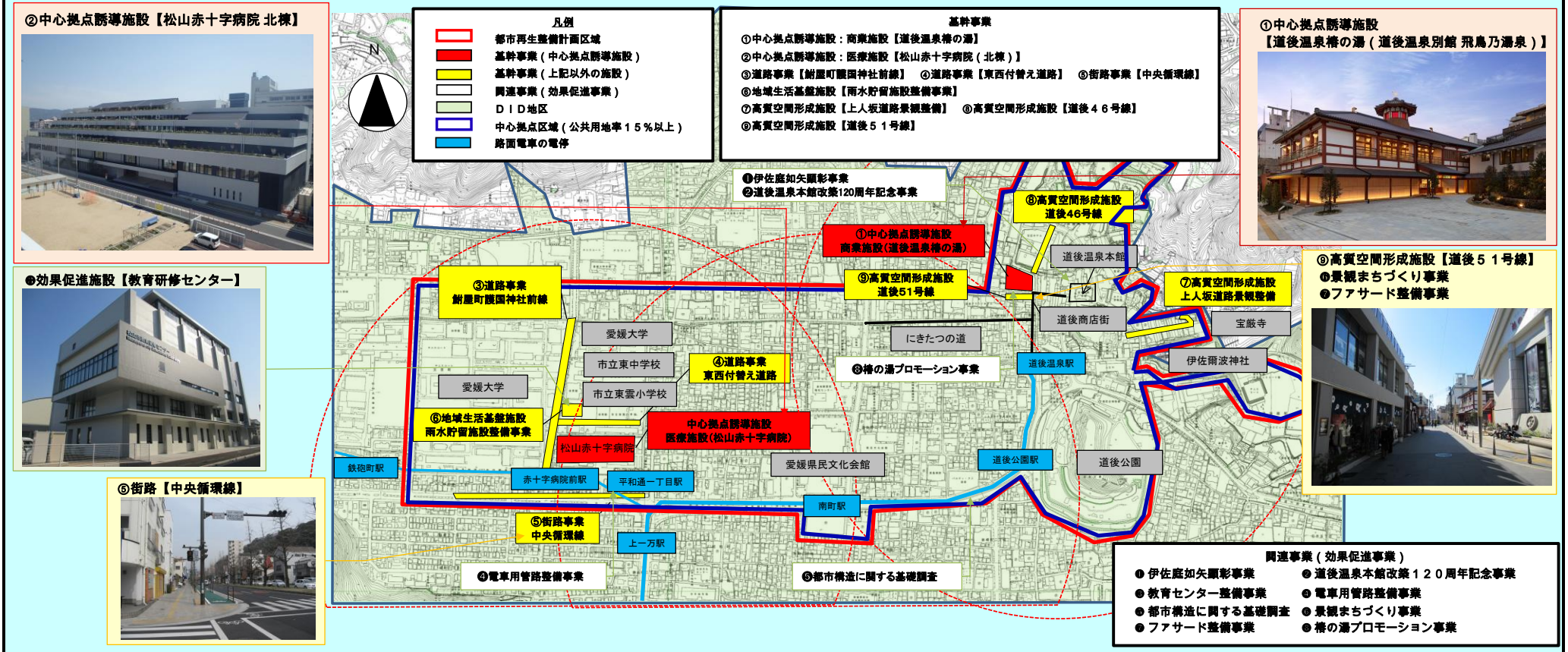
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛媛県	市町村名	松山市	地区名	道後文京地区(都市再構築戦略事業)			面積	112.0ha			
交付期間	平成25年度～平成29年度		事後評価実施時期	平成30年度		交付対象事業費	4,603百万円	国費率	0.5			
1)事業の実施状況	事業名											
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	・中心拠点誘導施設:商業施設(椿の湯改築、広場・修景整備、駐車・駐輪場整備)・中心拠点誘導施設:医療施設(松山赤十字病院) ・道路事業(都市再構築戦略事業):鮎屋町護国神社前線、東西付替え道路・街路事業(都市再構築戦略事業):中央循環線 ・地域生活基盤施設:雨水貯留施設整備事業・高質空間形成施設:上人坂道路景観整備、道後46号線、清水91号線									
		提案事業	(参考)関連事業(効果促進事業) ・伊佐庭如矢顕彰事業・道後温泉本館改築120周年記念事業・上人坂町家再生整備事業・道後温泉観光まちづくり推進事業 ・上人坂町家再生整備事業・自転車の安全利用促進事業・歩行者の安全啓発事業									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	・高質空間形成施設:清水91号線		事業実施の合意形成に至らなかった			影響なし				
		提案事業	(参考)関連事業(効果促進事業) ・道後温泉観光まちづくり推進事業		事業実施の合意形成に至らなかった			影響なし				
新たに追加した事業	基幹事業	・高質空間形成施設:道後51号線					観光入込客数や道後温泉宿泊者数の増加に寄与した					
	提案事業	(参考)関連事業(効果促進事業) ・道後温泉アートフェスティバル事業 ・景観まちづくり事業・ファサード整備事業・椿の湯プロモーション事業 ・教育センター整備事業・電車用管路整備事業・都市構造に関する基礎調査										
交付期間の変更	当初	平成25年度～平成29年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	松山市の観光入込客数	人	5,711千人	H23	6,000千人	H29	6,005千人	○	あり	観光客が歴史・文化を体感し保養できる交流エリアとしてまちの再構築が図られ、交流人口が増加したことによる。	-
	指標2	道後温泉宿泊者数	人	800千人	H24	820千人	H29	899千人	○	あり	商業施設が整備されたことにより、交流型観光地として、来街者が増加したことによる。	-
	指標3	電停利用者の増加	人	2,236千人	H24	2,500千人	H29	2,431千人	△	あり	● 商業施設や医療施設の整備等の完成により、各施設の利用者増加に伴い、公共交通利用者の増加も見込まれる。	-
	指標4	中心市街地活性化基本計画区域内人口の増加	人	28千人	H24	31千人	H29	28千人	△	あり	● 交流人口の増加を居住者人口の増加につなげていく施策展開が必要である。	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	椿の湯・飛鳥乃湯泉エリアの通行量(平日12時間通行量)	人	3,823人	H29		5,990人				新たな外湯文化を展開する観光拠点を整備し、交流人口が増加したことによる。	-
その他の数値指標2	外国人観光客数	人	64千人	H25		195千人				交流型観光地として魅力が向上し、外国人観光客の来街機会を創出した。	-	
その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	コンパクトシティの取組みが浸透している。											
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた				-	-		
	住民参加プロセス	道後温泉地区の観光事業者やまちづくり団体の構成員を中心に「道後温泉活性化懇談会」を設置し地元関係者の意見を反映しながら、法定審議会の「道後温泉活性化計画審議会」で審議を重ねるなど、実行性のある事業進捗を図った。			都市再生整備計画に記載し、実施できた				-	今後も引き続き、地元関係者との会合や意見交換を通して、地域魅力創出につながる、来街者増加及び交流人口増加に寄与する事業展開を図っていく。		
		道後温泉地区の観光事業者やまちづくり団体の構成員を中心に「道後温泉活性化懇談会」を設置し地元関係者の意見を反映しながら、法定審議会の「道後温泉活性化計画審議会」で審議を重ねるなど、実行性のある事業進捗を図った。			都市再生整備計画に記載し、実施できなかった				-	-		
持続的なまちづくり体制の構築	道後温泉地区の観光事業者やまちづくり団体の構成員を中心に「道後温泉活性化懇談会」を設置し地元関係者の意見を反映しながら、法定審議会の「道後温泉活性化計画審議会」で審議を重ねるなど、実行性のある事業進捗を図った。			都市再生整備計画に記載し、実施できた				-	今後も引き続き、地元関係者との会合や意見交換を通して、地域魅力創出につながる、来街者増加及び交流人口増加に寄与する事業展開を図っていく。			
	道後温泉地区の観光事業者やまちづくり団体の構成員を中心に「道後温泉活性化懇談会」を設置し地元関係者の意見を反映しながら、法定審議会の「道後温泉活性化計画審議会」で審議を重ねるなど、実行性のある事業進捗を図った。			都市再生整備計画に記載し、実施できなかった				-	-			

## 様式2-2 地区の概要

### 道後文京地区(愛媛県松山市) 都市再生整備計画事業の成果概要

平成31年1月 愛媛県 松山市	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	評価	目標値	評価	従前値	評価
<b>大目標:</b> 交流型観光地の創造、高次都市機能の向上、安全で安心なまちづくりによる「住んでよし、訪れてよしのまち まつやま」の実現 目標1: 恒久の歴史資源を保存・継承し、新たな視点で発信・展開する観光拠点を整備する 目標2: 地域特性を活かした景観形成や散策できる環境整備に取り組み、街全体を観光資源化する 目標3: 公共交通の利用と連携した都市型温泉郷としての賑わいを再生する 目標4: 安心して暮らせるまちづくりを実現する	松山市の観光入込客数	単位:人	5,711千人	H23	6,000千人	H29	6,005千人	H29
	道後温泉宿泊者数	単位:人	800千人	H24	820千人	H29	899千人	H29
	電停利用者の増加	単位:人	2,236千人	H24	2,500千人	H29	2,431千人	H29
	中心市街地活性化基本計画区域内人口の増加	単位:人	28千人	H24	31千人	H29	28千人	H29
		単位:		H		H		H



**まちの課題の変化**

- ・持続可能な都市経営を行うため、公共交通の発達した中心部に都市機能を回帰させ、集約型都市構造を図る必要がある。
- ・自然災害の発生リスクが増大している中、被害を最小限に抑えるための防災・減災対策が必要である。
- ・観光地間競争の激化に伴い、質の高いまちの環境・景観・地域性の創出を図り、まちの魅力を高める対応が必要である。

**今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)**

- ・第6次松山市総合計画では、既存の拠点などを生かしたコンパクトなまちづくりを進め、居住機能や産業機能を集約するとともに、自然が調和したまちが形成されるよう土地利用の誘導を図ることとしている。
- ・都市計画マスタープランでは、効率的・効果的な投資を図っていくため、都市の活動拠点となるゾーンや拠点、さらにはその連携軸における整備を重点的に推進し、集約型都市構造の形成を目指すこととしている。
- ・松山市では、平成29年3月31日に、都市再生特別措置法に基づく「松山市立地適正化計画」を公表し、コンパクトシティを目指している。